

教育委員会だより

令和8年1月29日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

未来を拓くリーダーたちの熱い対話

～第39回多治見市連合生徒会交流会～

1月6日（火）、多治見市内の各中学校から生徒会役員が集まり、今年度2回目となる「多治見市連合生徒会交流会」が開催されました。この会は、学校の枠を超えて各校の取り組みや課題を共有し、自分たちの学校生活をより良くするための主体的・積極的な姿勢を養うとともに、次世代のリーダーを育成することを目的としています。当日は、各校の特色ある活動報告から始まり、後半のグループ協議では「今ある課題をどう解決するか」「これからどんな新しい挑戦ができるか」について、熱心な議論が交わされました。

参加した生徒たちは、他校の実践事例を真剣な表情でメモに書き留め、「その取り組み、私たちの学校でも応用できそう！」と目を輝かせてアイデアを吸収していました。他校の発表に対し、自校の課題と照らし合わせて具体的な質問を投げかける探究心。そして、「自分たちが学校を変えていくんだ」という強い責任感と当事者意識。さらに、初対面の仲間とも即座に打ち解け、意見をまとめ上げる

高いコミュニケーション能力。自分たちの学校を客観的に見つめ直し、より良い環境にしようと主体的に動く姿は、まさに未来の多治見を担うリーダーそのものでした。議論の内容は多岐にわたり、校内ルールの見直しから行事の活性化、地域との繋がり方まで、中学生らしい瑞々しい感性と、論理的な思考が光る質の高い交流会となりました。



今回の交流を通して得た刺激やヒントは、今後それぞれの学校へと持ち帰り、新しい生徒会活動の糧となります。教育委員会では、これからもこうした「生徒が主役」となる学びの場を大切にし、自ら課題を解決しようとする力強い成長を支援していきます。

母語と日本語を大切に育つことを願って ～日本語指導研修会～

12月12日（金）と1月26日（月）の2回、愛知教育大学日本語教育支援センターより菅原雅枝准教授をお迎えし、市内小中学校で外国籍等児童生徒に関わる担当者を対象に「日本語指導研修会」を開催しました。これは、市教育委員会と愛知教育大学の相互連携協定の締結により実現しました。今年度、文科省発行の日本語能力測定方法 DLA が改定され、子どもの持つ本来の「ことばの力」に光を当てたことから、多治見市の外国ルーツの子どもたちへのより充実した日本語指導のために企画した研修です。参加者はそれぞれの課題意識をもち真剣な面持ちで講義を受け、具体的な「個別の指導計画」のグループワークにも熱が入りました。菅原先生の熱のこもった講義に、参加者一同、心が温かくなりました。児童生徒が自身のルーツである家庭の「母語」と、学校で学ぶ「日本語」の両方を大切にし、この多治見市で安心して心豊かに育つことを願っています。



カウントダウン開始！～笠原小中学校校舎竣工～

1月27日（火）、待ちに待った笠原小中学校の新校舎が竣工し、引き渡しが行われました。4月の開校に向けて、予定通り準備が整いました。



< 校門 >



< 教室 >



< ピロティ >



< 図書室 >



< 交流の杜 >



< セラミックアートテラス >